

太字以名勝字主帖

291.08

14

1915

昭和55年11月8日

分類	冊号	291.08
登録	録号	6384



石田貞重郎氏寄贈

はしぎき

風光明媚なる我奈良は交通機關の著しく發達するに伴ひ
遊覽探勝或は美術の研究を目的とする人士の往來益々頻
繁となつた此に於て市は觀光者の便に供せんが爲め本寫
眞帖を編纂することゝした素より此の外に名勝舊蹟數多
くあるがそれを一々掲ぐるには中々多大の紙數を要する
からその重なるものをのみ摘出したのである然かしそれ
も倉卒の間に纏めたことであるから盡さざる点もあるだ
らふと思ふ又其説明も單に要領の記述に止めた譯である

大正四年一月

奈良市役所

奈良市街全景

古松老杉蒼鬱たる春日山は東方に聳ねて温乎たる嫩草山に配し市街は山麓に雲を連れて堂塔祠宇樹林の間に隠現し景色の絶佳なる畫幅を展べたるか如きもの之を奈良とす大和の北部京阪の中樞に位する都邑なり古の層宮縣春日の郷にして入皇九代開化天皇の都し玉ひし所なり崇神天皇の御世に至り皇居を磯城に遷し玉ひしが元明天皇和銅三年都を平城に遷し玉ひしより左右の二京に分ち九條の大路を通じ宮殿の結構宏壯を極む之れを平城の都と稱す從是以後桓武天皇遷都に至るまで七代七十五年間の帝都たり此間文物の隆盛技藝の進歩前後其比を見ざる所なり今の奈良は即ち平城の左京に屬し東大、興福、元興等の諸大刹率川、漢國、阿波等の大社の在る所なるを以て當時は是等社寺の宮司封戸の家居のみなりしが遷都以來寺僧互に土地を占領し或は土豪の侵畧する所となり民居漸く擴まり遂に一部邑をなすに至る之を奈良或は南部と稱せり享保元年の頃奈良に七郷あり興福寺の配下に屬す織田信長及豊臣秀吉の時寺領多く沒收せられしかば工商の來り住するもの次第に加はれり天正十三年豊臣秀長大和の大守となり郡山城に移居するに及んで奉行所を設け七郷の名を改めて奈良と稱す明治維新後鎮臺を置き後奉行所を廢し次て奈良縣となり明治九年堺縣に合併せられ同十四年大阪府に合せらる此時奈良は頗る萎靡寂涼を極めしが明治二十年復び奈良縣を置かれしより漸く衰憊を挽回せり明治二十二年町村制實施前までは奈良を百四十七ヶ町とし之れを五小區に分ち毎小區戸長を置き以て民政を治めしが町制實施の際舊來の分區を一とし之れを奈良町と公稱す明治三十一年二月市制を實施せられて今日に及べり而して官公衛學校の設置と交通機關の發達は著しく市の發展を促し加之千古に優秀せる建築彫刻等を藏せるを以て名勝古跡を以て勝れたる奈良は更に美術を以て世界に重要な地位を占むるに至れり

View of Nara City



奈良市役所

市役所は市の中央にあり此圖

の右は事務室大正三年の改築

左は市會議事堂明治四十一年

の改築なり



The Nara Municipal Office



猿澤池畔より五重塔

附近を望む

猿澤池は月の名所として奈良八景の一なり乃
字形をなし周圍八十六間餘古來放生池にして
魚鼈淵に躍り餌を投すれば群り食ふ五重塔は
天平二年光明皇后の創立し給ふ處にして今の
塔は應永三十三年の再建に係り高さ十五丈餘
東山時代の趣味を發揮し好古家の嘆賞措く能
はざる所なり又此一圓の眺望絶佳にして轉た
古都の美を偲はしむ

View of the Pagoda from Sarusawa-Pond



南 圓 堂

南圓堂は弘仁四年右大臣藤原冬嗣の建立に係
り今の堂は寛保元年の再建にして不空絹索觀
音を安置す西國巡拜三十三所中九番の札所な
り又堂前の白藤は奈良八景の一にして満開の
頃は頗る觀賞に適す

N a n e n d o

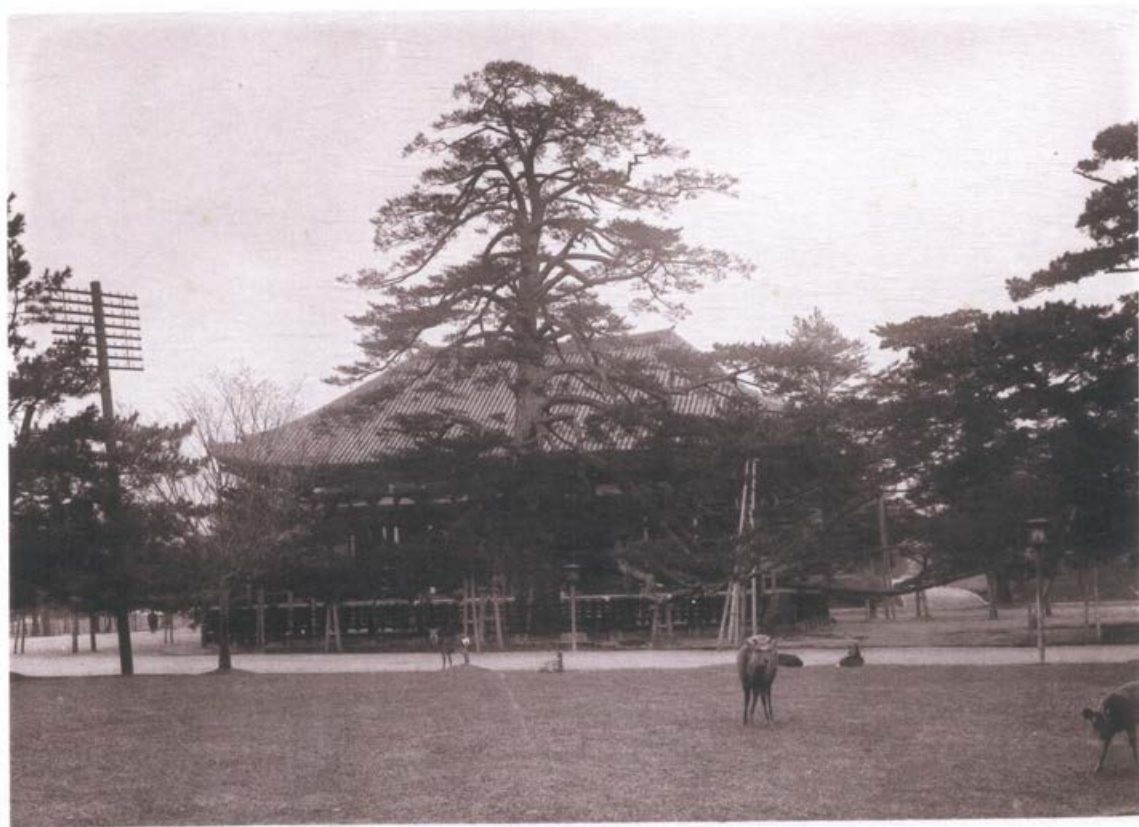


花の松と文殊堂

文殊堂は興福寺境内にあり神龜二年聖武天皇の御建立にして其后火災に罹ること六次現在の堂宇は應永年間の建築なり本尊は藥師如來にして運慶の作なりと傳ふる四天王、維摩文殊像等を安置せり 又堂前に臥龍蜿蜒たるが如き一樹の老松あり之れ有名なる花の松にて四時綠濃かに五重塔と相對し公園の一偉觀たり高さ十四間東西十八間南北二十二間廻三間半あり



The Flower-shaped Pine & Monjudo



大御堂

菩提院といひ天平年間玄昉僧正の建立する所
今の建物は應永年間の再建にて本尊は無量壽
佛なり此院を俗に十三鐘と稱ふるは寺僧勤行
の合圖に六ッ時と七ッ時とに鐘を撞きたるを
以てなり境内に塚あり里俗之れを三作石子詰
の跡舊といふ



奈良
ホテル

南都舊大乘院庭園の丘上にあり土地高燥にし
て空氣清澄眺望亦佳なり本邦古式の建築なる
が上尙施すに歐米最新の設備を以てし大小數
室の食堂應接室喫煙室讀書室球戲場及び五十
有餘の寢室を有す明治四十二年の開業に係り
今は鐵道院の直營に屬す

The Nara Hotel



春日一の鳥居

春日神社境内西端にあり木造朱塗明神形高さ

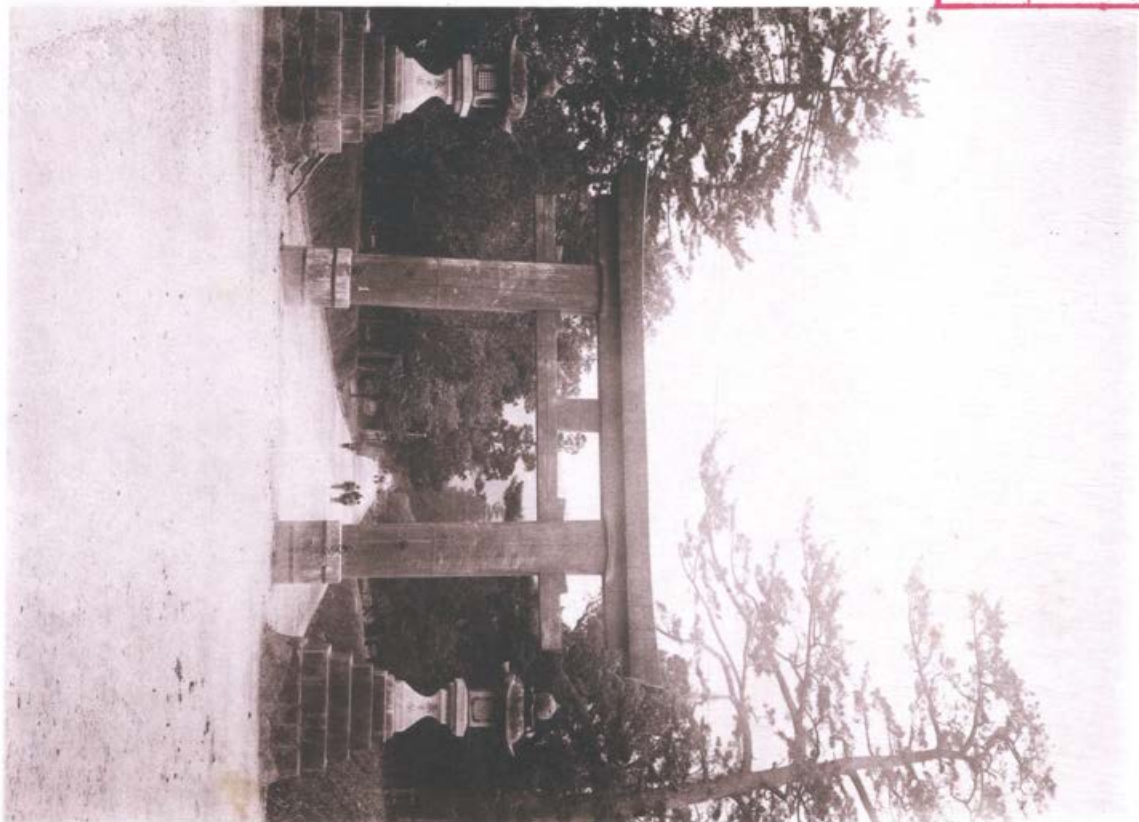
二丈餘東十餘町にして本社に至る両側樹林蒼

鬱として神靈の尊嚴を感せしむ



The First Gate of Kasuga Shrine

分類番号	291.65
登録番号	6384



梅林と圓窓亭

春日一の鳥居の東南に當りて梅林あり之れを
片岡の梅と稱す春宵風靜かに月朧なるとき芳
香馥郁として來るまた小羅浮の感あり此處よ
り鷺池の碧瑠璃を隔て近く淺香瑜伽の森を望
むで古雅なる一亭あり圓窓亭と名づく四方に
圓き窓のあるによるなり

The plum-tree grove & the round window arbour



鷺池附近

公園片岡の麗碧瑠璃を湛へて朱欄の橋は宛然

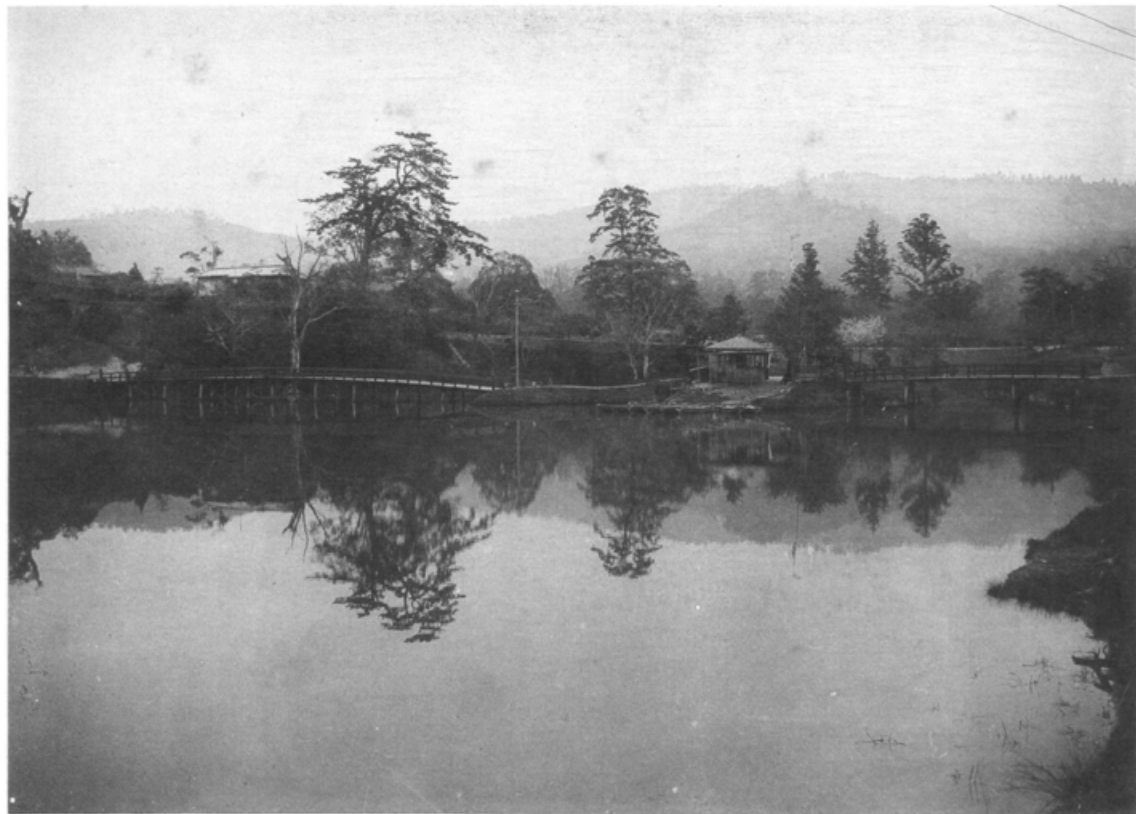
長虹の如く短艇軽く影を投じて鯉魚躍る東に

春日嫩草の諸山を負ひ西に瑜伽の森に對す五

重塔の暮色四顧何れか畫中のものたらざるは

なし

Vicinity of Sagiike



八 方 亭

公園片岡にある小亭にして八方亭と名付く八角形なるを以てなり雪消の澤は其東北十數間

にあり

Octagonal arbour



奈良縣物産陳列所

明治三十四年山城宇治の鳳凰堂を摸して建築
したるものにして縣内の物産を陳列して即賣

す



The Nara Prefectural Product Exhibition



春日群鹿

奈良公園到る所森の陰芝生の上悠々として此

處彼處に群れ遊びて人に馴るゝ様眞に愛すべ

し舊幕の頃は神鹿の保護最も嚴重にして奈良

市中は犬を飼養する事を許さゞりしと傳ふ



Deer of Kasuga



御料地の躑躅

雪消の澤の東一帯の地は御料地にして初夏の
候緑草氈を敷けるが如き處恰も錦繡を晒せし
如くなるは幾千の躑躅花の咲き亂だるゝもの
にして群鹿の悠々として遊べる状は人をして

轉た仙境にあるの思ひあらしむ

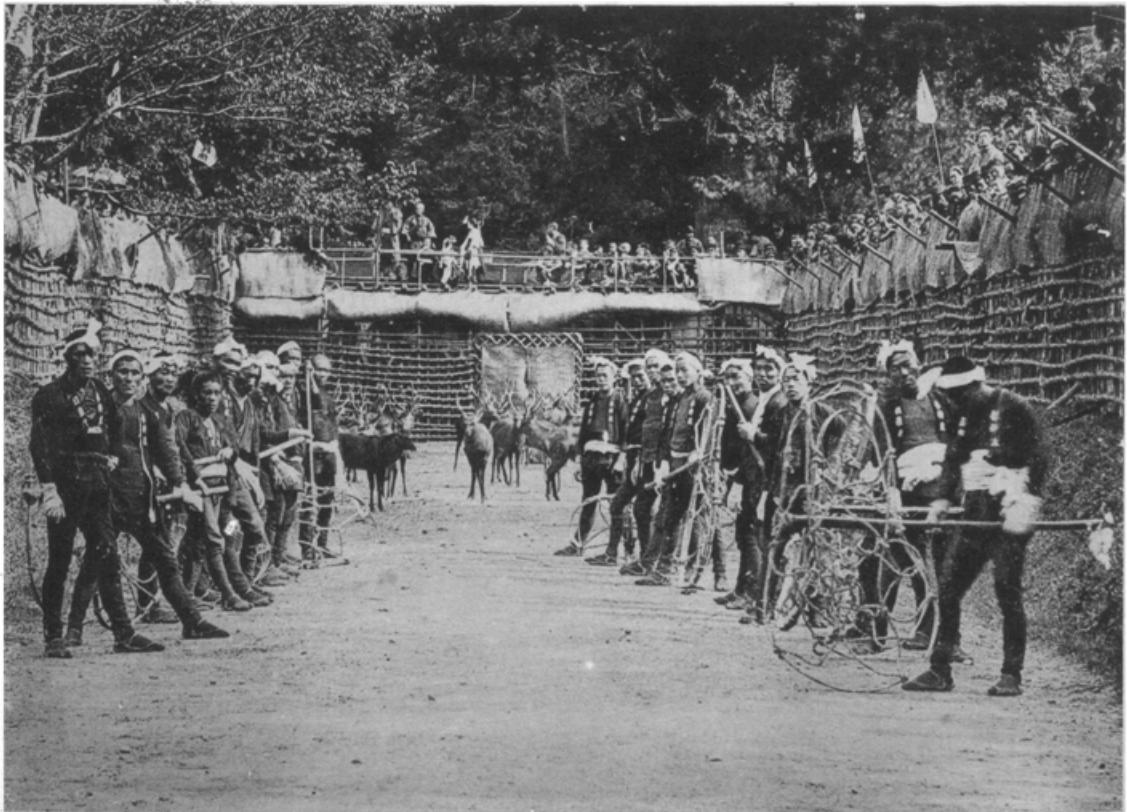


Azaleas of the Imperial Estate



神鹿角伐

寛文十年始めて鹿の角伐りを行ふてより明治
維新に至る迄毎年秋の彼岸中に執行する慣習
なりしが其後全く廢せられたるを近時再興し
毎年十月中旬に行ふ事となれり昔は奈良奉行
の命令の下に各町に於て年々交代に角を伐り
たるが今は春日境内に竹矢來をもて圍ひ追廻
し逃げ走るを捕へて伐るなり奈良年中行事の
一にしてまたとなき奇觀なり



春 日 本 社

神代ながらの古杉老檜枝を交へて幽趣掬すべきの地朱欄碧樓の社殿、燦然として人目を眩する者之れなん官幣大社春日神社なり祭神武甕槌命、經津主命、天兒屋根命及び其の姫神の四柱を祀る左右を廻らす廻廊に釣燈籠幾百を懸く莊嚴華麗譬ふるに物なし今より千百有餘年前神護景雲二年の春初めて鎮座ましましき、境内には燈籠頗ふる多し、最近の調べに依れば約三千基ありと云ふ鬼形の釣燈籠、鳴蟬燈籠など最も聞ゆ、節分の夜は此の燈籠に悉く点火するを例とすこの夜景亦美觀なり

Kasuga Shrine



春日若宮

春日若宮は天兒屋根命の子天忍雲命を祭る長

承四年の創立にして毎年十二月十七日祭式を

行ふ世に之れをおん祭と稱せり

Kasuga-wakamiya



春日本宮祭禮

嘉祥三年始めて本社の祭禮あり貞觀元年以來

春二月と冬十一月何れも上申日さるひに執行せられ

申祭まゐと稱し儀式加茂の祭に同じかりき明治十

九年以後三月十三日に定められ祭儀舊に復し

勅使參向ありて頗莊嚴なり

Festival of Kasuga Shrine



春日御旅所

春日若宮祭禮の時假神殿を造營して祭典を行ふ世にふん祭と稱す保延三年關白藤原忠通時の饑饉を憂ひて祭禮を執行したるが始めにて幕府の時代には祭祀料二百石を給したり假殿の用材費の鳥獸は大和全國より課出し祭儀には諸藩旗本行列し古來頗る盛大なりしも今は私祭にして毎年十二月十七日之を行ふ其祭儀は今尙古式を模す遠近より來り賽するもの群集し當國第一の大祭なり圖は祭禮中の日使代參勤の光景なり



春日巫子

白衣緋袴にて社頭に祇候し優

美なる倭舞を奉奏す



Sacred danceress of Kasuga Shrine



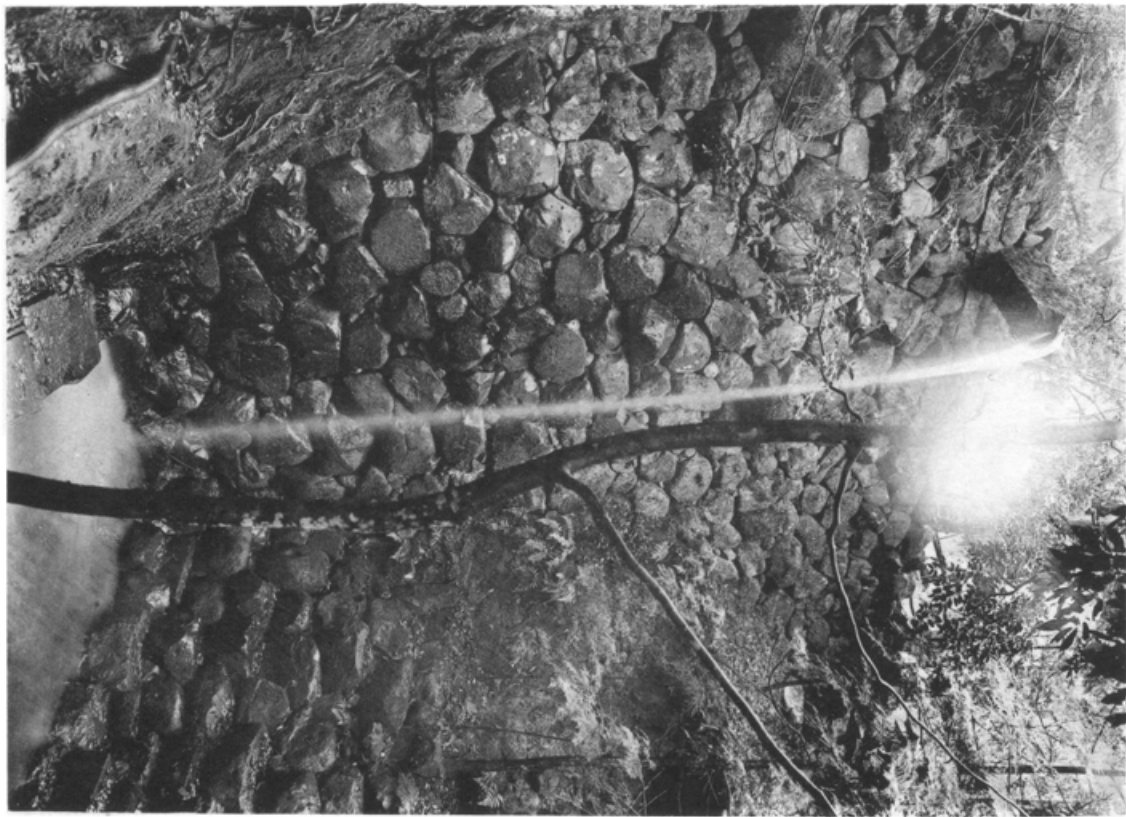
白藤の瀧

幽邃閑雅なる春日の境内にあり高さ數丈一條

の清泉直下せる狀恰も白藤に似たるにより此

の名あり

White wisteria water fall



春日の藤

春日神社の境域老樹の梢高く若紫の藤花玉房

を垂るゝの状は恰も紫雲の霞翳たるが如し



Wisteria flowers of Kasuga Shrine



新薬師寺

聖武天皇御眼疾平癒祈禱の爲め行基僧正に勅

して建立せしめ玉ふ、本堂は天正年間東大寺

大佛殿造營の殘木を以て建築せしものにて今

に至れり、本尊薬師如來坐像は行基の作にし

て十二神將の塑像は傳鳥佛師の作にして共に

神品なり

Shin-yakushi



瀧
阪
楓

瀧阪街道溪流に沿ひ景致幽雅最も紅葉を賞す

べし沿道附近岩石の佛像を刻せるもの頗る多

し榛莽深く封するの間に古人奇石に彫刻せる

技術の巧妙を探るも亦一種の趣味あるべし

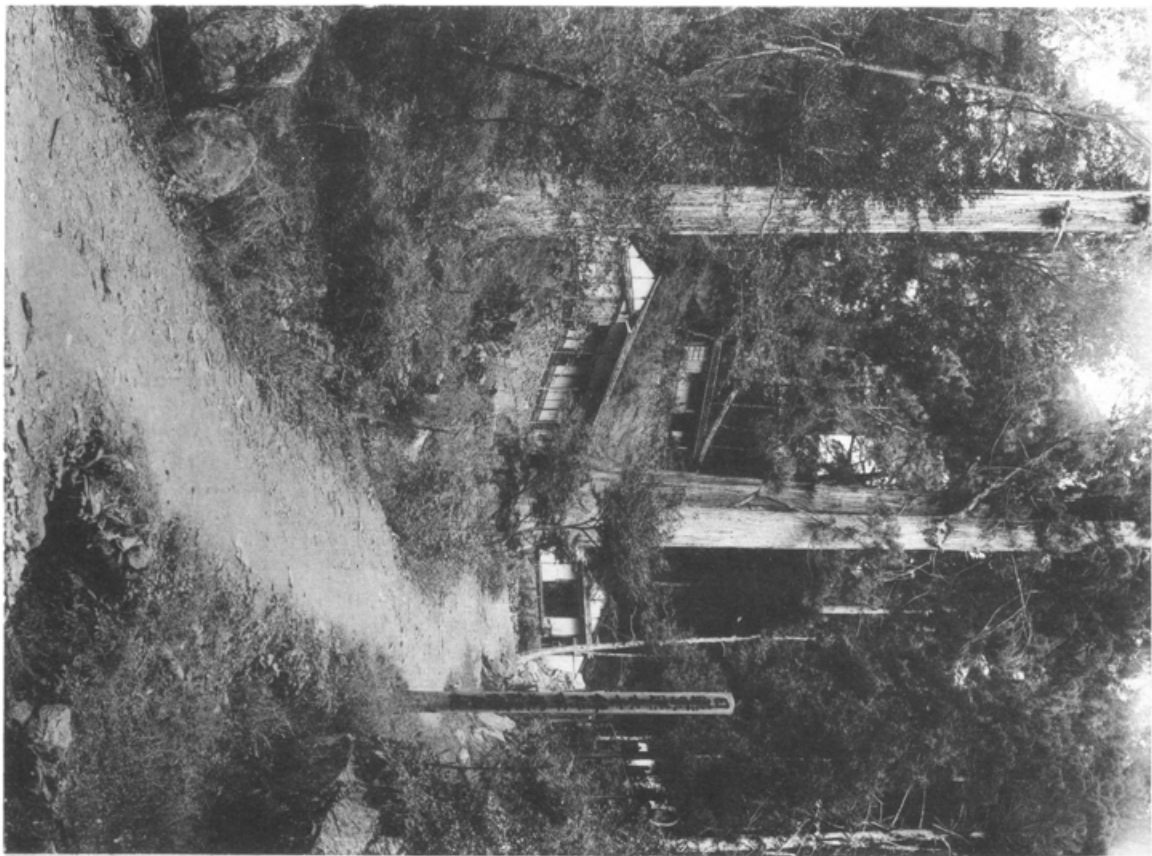
Maple trees of Taki-saka



妙見堂

日蓮宗蓮長寺の修行所にして高畑町字市の井
を距る約八丁觀楓の名所瀧坂に通ずる沿道に
あり深山幽邃の地を擇み大正元年堂宇を建設
す山氣自ら至り俗塵を拂ふ四時參詣者多く參

籠所の設けあり



洞の楓

水谷川を遡れば洞の楓に至る楓樹多くして秋

色最も佳なり月日の磐氷室の舊跡亦此處にあ

り此境幾千の紅楓鬱蒼たる古杉老檜と相映じ

て風光の美いふべくもあらず



Maple trees of Hora



鶯の瀑布

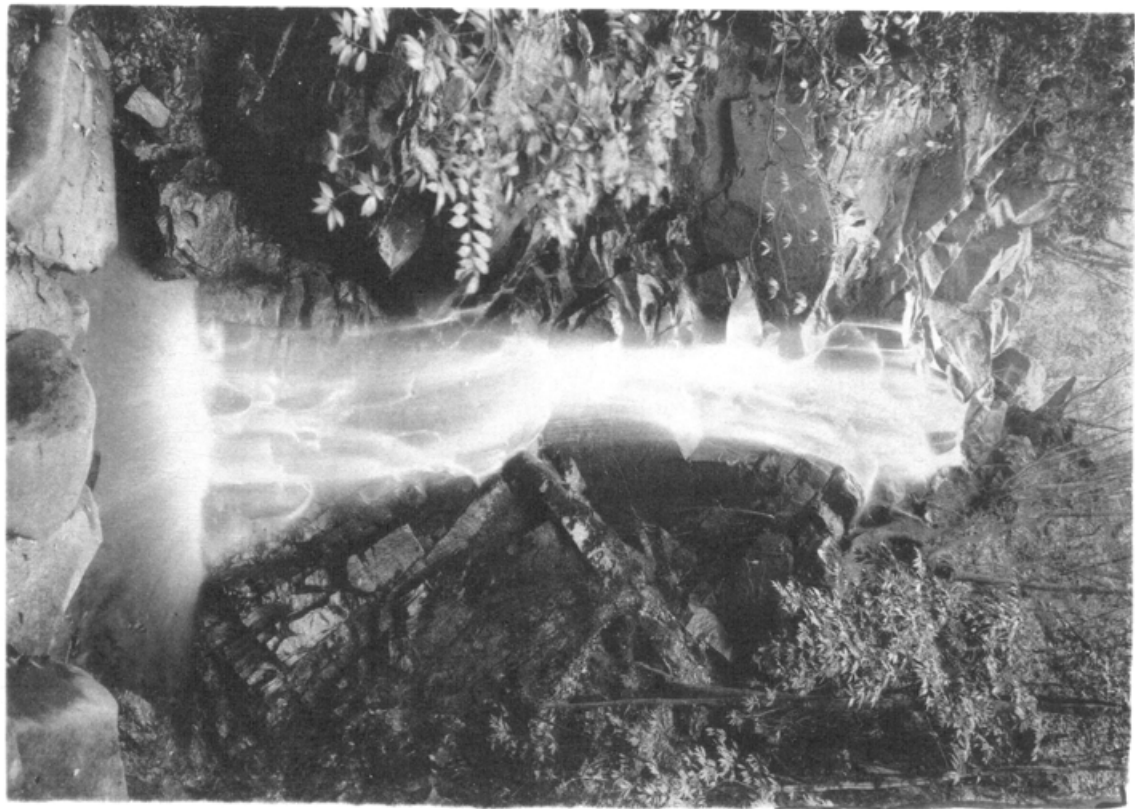
春日山中氷室舊址より東北二十餘町^町芳山の西

谿より落つ高さ四十一尺幅八尺許り怪石起伏

し秦樹繁茂し境場頗る幽かなり源は石切嶺に

發す避暑の最好適地なり

Nightingale-waterfall



興福寺別院

春日山中鶯瀧附近にあり大聖歡喜天尊を安置

す明治三十五年菩提院より此地に遷したるな

り境内大黒堂、參籠所あり山堂風清く遙かに

愛宕の峰を望み又泉河いづみがほに白帆の往來を眺むを

得べく殊に四時の風趣に富み登山者多し



嫩草山

一面の芝生青氈を敷けるか如き嫩草山は老樹
森嚴なる春日山と照映して一段の風致を添ふ
高さ千百尺餘山容三層をなし俗に呼んで三笠
山といふ登るに隨ひて眺望遠く開け大和の平
野山城の連山皆一眸の中に集まる此の山曾て
東大、興福、兩寺の間に境界論起りし時南都五
大寺の仲裁にて何れの所有とも定めず雙方立
會の上年々焼拂ふことゝなりしより今に至る
まで毎春芝草を焼拂ふを例とす芝焼の光景た
る眞に美觀にして或は銀河九天より落ちしか
と疑はれ或は火龍珠を争へるかとも見ゆ

Mt. Wakakusa



手向山神社

手向山の麓清く寂たる手向山神社は紅楓青松
の間にあり天平勝寶元年豊前國宇佐宮より遷
座あり應神天皇、姫神、仲哀天皇、神功皇后の
四柱を祀れり祭禮は毎年十月五日に行ふ

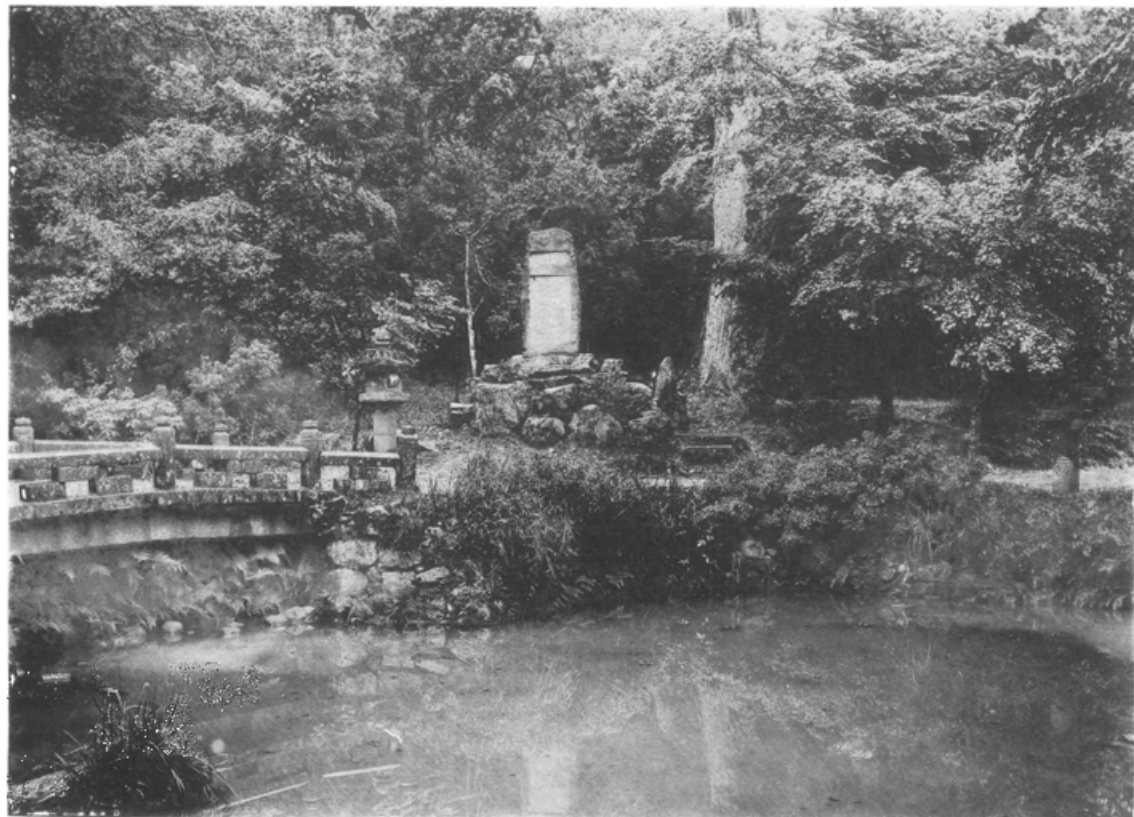
Tamuke-yama Shrine



手向山楓

「此度は幣も取りあへず手向山紅葉の錦神の
まに／＼」と千年の昔し菅家の歌に入りてよ
り今も猶人口に膾炙せり楓樹多く秋色の美二
月の花にも勝れり

Mapletrees of Tamuke-yama



三 月 堂

本名は法華堂、又は金鐘寺ともいふ天平五年

良辨僧正の開創に係り奈良第一の古建築にし

て本尊は不空罽索観音なり

Sangatsu-do



二 月 堂

二月堂は良辨僧正の高弟實忠和尚の建立する

所今の堂は寛文九年徳川家綱の再興に係れり

本尊は十一面観音の銅像にして別に人身の暖

みありといふ秘佛の小観音あり世人の信仰最

深し



東大寺二月堂達陀八天儀式

本儀式は寺傳に天平勝寶四年壬辰二月一日より僧實忠か二月堂觀音寶前に於て二七日夜の行法を修するに當り都率とそつ八天此道場に降臨して種々の神變を顯はし佛閣を繞りたるを以て爾來此儀式を行ひ以て天人の影向に摸するものなりとあり挿入する圖は其假裝の實況を撮影す

Buddish ceremony at Nigatsu-do



大佛大鐘

大佛の晩鐘は奈良八景の一に數へられたり堂

は四間四面鐘の高さ一丈三尺六寸、口徑九尺

一寸三分厚さ八寸胴の周圍二丈七尺、熟銅五

萬二千六百八十斤、白蠟二千三百斤と舊記に

見へたり、鐘も建物も天平時代にて、古色蒼

然として掬すべし



Big bell of Daibutsu



大 佛 殿

東西二十九間南北二十六間高さ二十四間の巍然として半空に聳ゆる堂は世にも名高さ大佛盧舍那佛の尊像を安置せる大佛殿なり廻廊東西七十七間南北六十六間三尺往時文物の隆盛を極めたる平城朝に於て最も佛法を尊敬し給へる聖武天皇の本願にて天平十五年行基菩薩良辨僧正の勅命を奉じ建立する所治承四年平重衡の兵燹に罹り建久六年源頼朝大檀那となり重源和尙勸進して再興せしを永祿年間亦三好松永の戦亂に遇ひて再ひ烏有に歸しぬ今の堂は元祿年間公慶上人の勸進により再興せるものにして其十四年に工を起し寶永五年に至りて落成せり其規模舊時に比すれば頗る縮小せるものあり而して近年七十餘萬の巨費と十有餘年の日子を費し大正二年に至り殿堂の大修繕を完成したり



大 佛 像

聖武天皇天平十五年を以て盧舍那佛建立の大

叡願を發したまひ天下に勸財して幾多の經營

を重ね同十七年より天平勝寶元年に至る三年

間に八ヶ度の改鑄を経て成就したるもの總高

五丈三尺五寸の座像にして實に我國に於ける

古今の大作なり佛頭は治承の兵火に焼け落ち

しを宋の佛工陳和郷之を修補し永祿年間再ひ

兵火の爲め落ちたるを山田道安之を修補す



鏡池

大佛殿中門前にあり一名八幡池と云ふ聖武天

皇の掘らせ玉ひし所にして八幡祭禮の日に

生物いさぎを放つ池なり池畔楓樹多し

Kagami-ike



正倉院

俗に寶庫と云ふ、孝謙天皇、光明皇后より聖
武天皇七々の忌辰に當り其冥福を祈らせ給は
んため當代の寶器を大佛に獻納し給ひしを藏
めたる校倉にして三稜の大材を疊みて四隅を
井樓の如く合せたり古來勅封にして今尙帝室
の有とす寶器無慮一萬点餘、以て當時文化の
燦然たりしを証するに足れり



東大寺南大門

此の門一に古門と稱す、東大寺の總門なり天平年代の建立にして應和二年の大風に倒れたりしを正治元年再建せし者なりといふ、仁王の木像は東を密迹力士といひて灌慶の作、西を金剛力士と呼びて運慶の作なり、天下無比の名作にして美術家の稱讚措さるところなり又石の狛犬は建久七年後鳥羽天皇の詔して造らしめ給ひしものにて石工は支那人六郎なり日本の石は物像を造るに便ならずとして支那より石材を輸入して造りしなりとか無双の名作なりといふ



春日野運動場

運動場は公會堂の北東大寺南大門の東にあり

明治四十三年縣費七萬五千餘圓を投じ設置し

たるものにして此總面積壹萬七千坪内平面八

千百二十五坪なり

Kasuga Play-ground



公 會 堂

奈良縣公會堂は俱樂部に隣り

結構宏壯にして風景に富み俱

樂部と併せて一般公衆の使用

に供す

Public hall



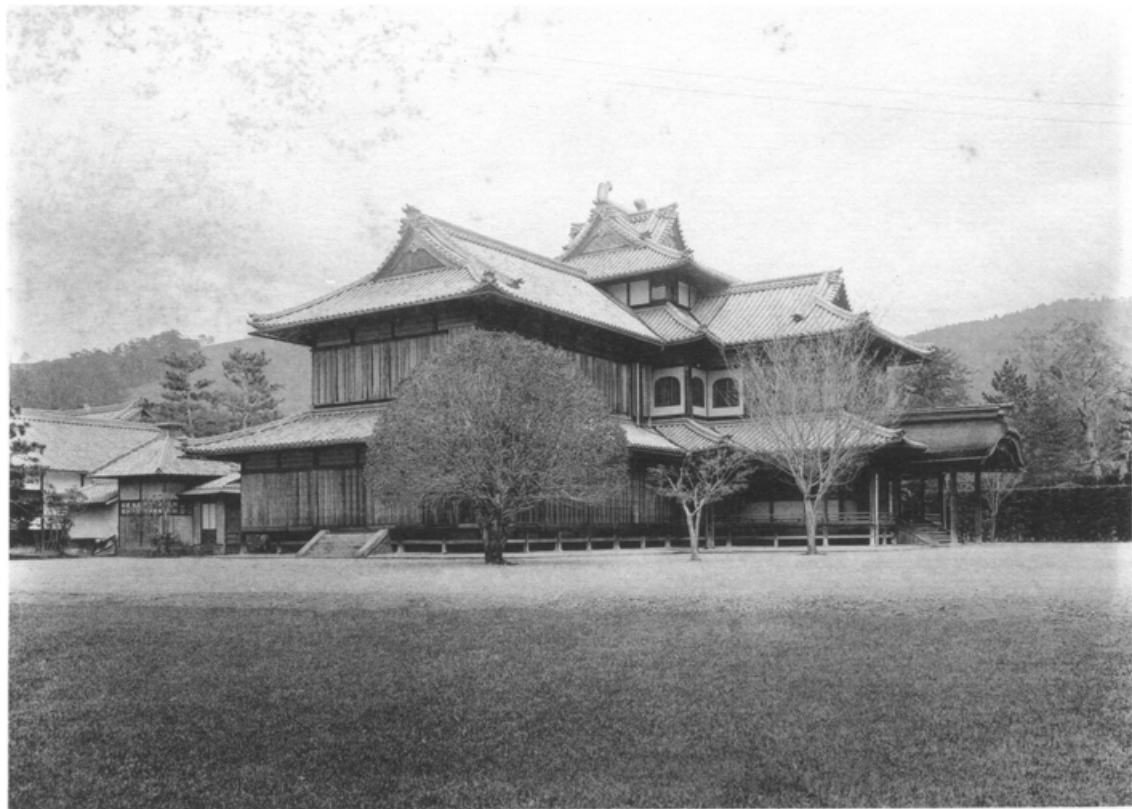
俱樂部

奈良俱樂部は縣有建物にして

結構優麗春日、嫩草山を一眸に

集め風景頗る佳なり

Nara-Club



八窓茶室

奈良帝室博物館地域内にあり含翠亭とも號す

古田織部の好にして舊大乘院庭上にあり明治

二十四年十一月有志の献納する所となる亭額

は藪内竹翁の題書にしておきろく隱岐縁六窓と併稱し

て南都三茶室の一なり



Hasso-chashitsu



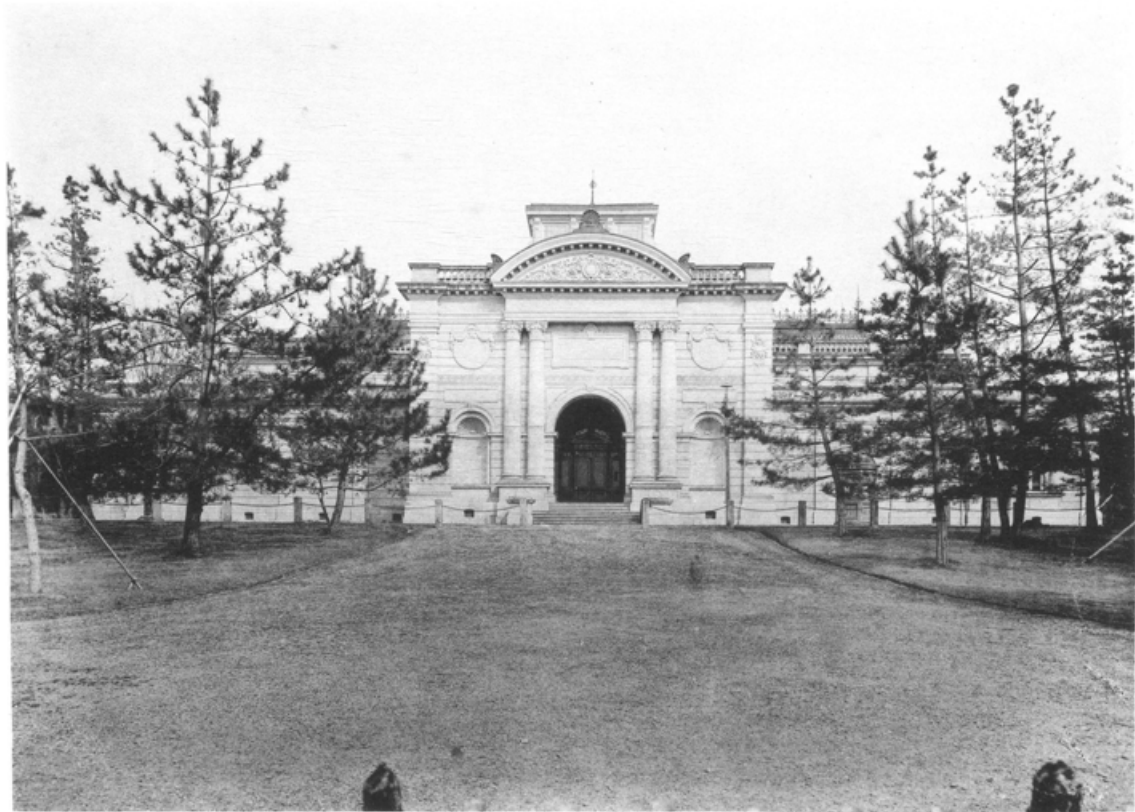
奈良帝室博物館

明治二十五年六月工を起し全二十七年十二月

竣成す歴史、美術、工藝の三部に分ち普く古代

美術の逸品を陳列せり

Nara imperial Museum



氷室神社

和銅三年氷室の鎮守として水谷川の上に祀れ

るを貞觀二年今の處に遷座せり祭神は鬮鷄稻

置大山主神、大鷦鷯命、額田大中彥皇子の三柱

にて毎年十月一日祭典を行ふ

Himuro Shrine



東圓堂の八重櫻

東圓堂は名のみ残りて今は昔の面影を止めず

奈良縣師範學校の敷地となり『いにしへの奈

良の都の八重櫻今日九重に匂ひぬるかな』の

八重櫻も其の構内の眺めを添へるとなれり



Cherry flowers of Toendo



縣立戰捷紀念圖書館

興福寺境内にあり明治三十七

八年戰役記念として創立同四

十二年十一月開館せり



War Memorial Library



般 若 寺

東大寺の別院にして白雉五年孝德天皇不豫御

平癒の爲めに蘇武日向臣の創始したるものな

り其後次々火災に罹り今僅に其一部を餘すの

みにて嵯峨天皇の宸翰、大塔宮の潜居し玉ひ

しと傳ふる辛櫃等を寶藏せり



漢 國 神 社

舊號率川狹加岡と稱す推古天皇の朝の創立に

して園神そののち(大物主命)韓神かんしん(大己貴命小彥名命)

を祀る養老元年藤原不比等再建其後治承四年

炎上に付御造營あり毎年十月十七日祭典を行

ふ

Kango Shrine



大正四年一月二十五日印刷
大正四年二月一日發行

不許
複製

著作
發行者兼

奈良市役所

印刷者

乾
奈良市橋本町
善兵衛

印刷所

奈良市橋本町
奈良明新社
電二四六番





